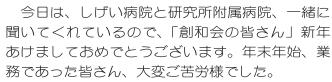


オンラインで両院 LIVE 中継! 新年互礼会

令和3年2月1日発行

理事長 重井 文博



さて皆さんどういうお正月だったでしょうか。 私は例年、年末は豪雪地帯の福島県会津只見に 行って、雪掘りをしてお神酒をいただき、餅を食 べて元旦を迎えていたのですが、今年はできな かった。雪掘りは結構ハードなので、しなかった 分、体がなまっています。(家の周りは屋根から の雪が重なって2階の高さに近づくので、地元で は出入り口を確保すべく「雪を掘る」と言います)

さて、恒例の箱根駅伝をテレビ観戦した方も多 かったでしょう。今年の箱根では、声援と共に太 鼓を打ち鳴らす応援団やゴールでの胴上げを止 め、給水係は手袋をするなど様々なコロナ対策の 工夫が見られました。主催の関東学生陸上競技連 盟は、「応援したいから、応援にいかない」をキャッ チフレーズに、なんとか大会を成功させようとい う想いが感じられました。

最終区、クライマックスでの大逆転劇から私が 思ったのは、背中を見せて走ること、迫りくる脅 威に対して背中を見せることの恐怖でした。これ



は、我々がコロナに対する姿勢に繋がる所があり ます。「背中を見せない」、心を合わせて、医療人 として正面から迎え撃つプライドと勇気が必要で はないでしょうか。箱根駅伝を見ることで、私は 毎年「今年一年、自分はこうしよう」と想いを新 たにしています。

今年は、8月21日(土)22日(日)に、実 行委員長を仰せつかるもコロナで1年延期になっ た全日本病院学会、また9月にはこれまた延期に なった透析マネジメント研究会をいずれも岡山で 開催します。皆さんには、協力をお願いいたしま す。また来年3月には、川崎医科大学腎臓・高血 圧内科学 柏原教授を大会長に、日本腎臓リハビリ テーション学会学術集会が5年ぶりに岡山に戻っ てきます。今回も副会長を仰せつかっており、こ れも皆さんの助けがなければと考えております。 神頼みと同じで、皆さんにはお願いばかりで申し 訳ないですが、コロナ対応を含めてこの一年が乗 り切れますように、協力をよろしくお願いします。

> 2021年1月4日 新年互礼会 理事長挨拶より抜粋

在宅 血液透析 10 周年を迎えて

研究所附属病院 血液浄化療法センター 課長 橋本 栄子

研究所附属病院は、2010年に岡山県下初の在 宅血液透析を始め、現在5名の患者さんがこの治 療方法を選択されています。

この度、研究所附属病院で最初の在宅血液透析を選択された患者さんが 10 年を迎え透析装置の 更新時期となり、新しい透析装置の操作トレーニングを受けていただくこととなりました。

当時のことを振り返ると、その患者さんは、透析導入時から長年腹膜透析をされていましたが、腹膜透析から血液透析へ治療方法の変更が必要となり、血液透析なら在宅でということで在宅血液透析を選択されました。そこで、急遽、瀧院長(現名誉院長)の指示の下、在宅血液透析チームを立ち上げることとなり、臨床工学部 田中技士長(現事務次長)や川口看護課長(現看護部長)を中心としたメンバーが土谷総合病院(広島県)や当時国内最多の在宅透析治療を行なっていた埼玉医科大学病院へ研修に行き、マニュアル作成や患者指導の方法などを学び、在宅血液透析の開始に向け



て患者さんと共にトレーニングに励んだことが昨日のように思い出されます。

新しい透析装置の操作トレーニング初日、私たちからささやかではありますが、10 周年のお祝いをさせていただきました。瀧名誉院長から表彰状の授与の後、スタッフ手製のくす玉のプレゼント、川口看護部長から花束贈呈、田中次長からお祝いの言葉を送りました。私も参加させていただきましたが、イベントの最初から10年前を思い出し、感動で涙、涙でしたが、くす玉が割れないというアクシデントに見舞われ、笑いあり、涙ありの楽しい時間となりました。

こうやって、10年を迎えられたのは、在宅血液透析の患者さんがしっかりと自己管理され、約束を守り、安全に透析を行なっていただけた結果だと感じています。これからも、患者さんが、健康で、一日も長く在宅血液透析を継続できるよう私たちもしっかり支えていきたいと思います。

総合受付・外来受付の統合について

研究所附属病院 事務部 課長補佐 三浦 桂子

これまでは、正面玄関を入って左の総合受付では初診患者さんの診察受付、右の外来受付では再診患者さんの診察受付で、外来受付の近くにあった再来受付機の利用率も低く、職員が保険証確認と同時に電子カルテにて手動で受付を行なうことが多くありました。また、近くに診察受付が2つあることで、どちらに行っていいかわからない患者さんも多くおられました。職員の配置も各受付に一定の人数配置が必要で、1人の職員が総合受付と外来受付を行ったり来たりして業務を行なうこともありました。

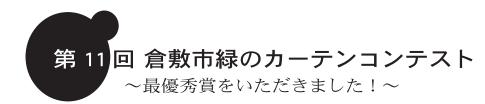
これらのことを踏まえて、患者さんにとっても 職員にとってもスムーズに診察の受付をしてもら いたいと考え、2020年 10 月より統合を開始し、 名称も「1. 総合案内・2. 診察受付・3. 会計」と番 号も加えて表示することでより案内もしやすくな



りました。

統合した当初は、インフルエンザの予防接種の開始と重なり、来院患者さんがとても多く混乱もありましたが、現在は、ほぼ全ての患者さんに再来受付機を通していただいてから保険証を確認するという流れが確立してきました。会計と診察受付が近くなったことで、情報共有も以前よりスムーズに行なえるようになり、統合の成果が出ていると感じています。まだまだ課題はあるので、今後もさらなる改善をしていき、臨機応変に対応できる受付を目指してまいります。

今回の統合にあたり、外来看護師の方々をはじめ、ご協力いただきました皆さまに感謝いたします。そして、受付の皆さん、患者さんの事前案内や引っ越し作業、大変だったと思いますが、ありがとうございました。



しげい病院 医療支援部 係長 吉田 和明

「第 11 回倉敷市緑のカーテンコンテスト」に応募し、最優秀賞をいただきました。

12月8日に倉敷市環境学習センターより3名の方が来院し、しげい病院にて表彰式をしていただきました。例年であれば他の受賞者の方々と一緒に会場にて行なうのですがコロナの影響で、しげい病院での表彰式となりました。選考は一般の方の投票で決まるそうで、多くの投票があったと聞きました。

5月の連休明けから準備に入り、工務係(安藤さん・長谷川さん)の二人が中心となり、ネット張りから日頃の手入れを行ないました。コロナ渦にて少しでも患者さんの癒しになればという思いもあり、少しでも気分転換になった方がいらっしゃれば幸いです。

また、今回応募した場所は、以前「広報誌はあもにい 2020 年 9 月号」でも紹介させていただき

ましたが、理事長が状態を確認し、弦の巻き付け 等を行なってくれた場所(4階屋上)を応募しま した。(理事長ありがとうございました!!)応募 した写真もとても上手く撮れて、カーテンの大き さが伝わる写真でした。環境学習センターの方た ちも感心されていました。

毎年思うことですが、うまく育つか心配でした。特に、今回はコロナの影響で毎年植えている苗の数が不足しており、4種類の苗を植えました。概ね葉は大きく育ち緑のカーテンとはなりましたが、花が上手く咲かなかった箇所があったのが残念でした。調べてみると、咲かないこともある種であることがわかったのですが、やはり花が咲いているのと咲いていないのでは、見栄えも違うなあと感じ少し残念でした。

今年も色々な職員の方の助けもあり無事に完了しました。また、来年もよろしくお願いいたします。





▲応募した写真~市民投票により選ばれました!~

しげい病院

リハビリテーションの歩み

はじめに

1965 年理学療法士および作 業療法士法が施行され、理学療 法士、作業療法士が誕生、1997 年言語聴覚士法が施行され言語 聴覚士が誕生しました。しげい 病院のリハビリテーションは、 1986年に理学療法士が在籍し たことが始まりです(グラフ1)。

リハビリテーションとは、単 に機能の回復という狭い意味で はなく、病気や外傷が原因で心 身が障害され生活上に支障が生 じたとき、多くの専門職が連携 して問題を解決していく総合的 アプローチです。そして病気や 障害がありながらも、その人が その人らしく地域で生活できる ようになるためには、医療、保健、

福祉などの専門分野、さらに隣 人やボランティアなど地域のマ ンパワーとの連携が大切です。 しかし 1990 年代、リハビリテー ションは訓練室で理学療法士、 作業療法士が行うもの、病棟で の訓練は体調の問題で訓練室に 来られない患者のベッドサイド 訓練であり、機能訓練が主体で あることが普通の時代でした。

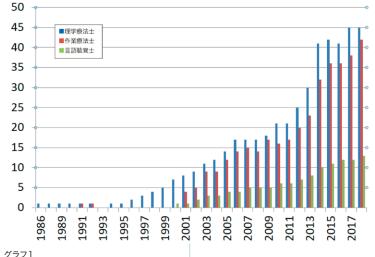
その後、生活の場でのリハビ リテーションという新しい発想 が提唱され、2000年に回復期 リハビリテーション病棟が制度 として創設されました。時を同 じくして、しげい病院の地域で の役割のあり方、方向を模索中 であった重井文博院長が、それ まで専門としていた腎透析医療 とともに、地域に不足するリハ

しげい病院 整形外科部長 清水弘毅 本部 人事部長 倡 山 (前しげい病院リハビリテーション部室長)

ビリテーションに力を入れる地 域密着型医療を、しげい病院の 行うべきもう一つの役割とされ、 南館3階の医療療養型病棟を回 復期リハビリテーション病棟に 転換することを決定されたので す。

回復期リハビリテーション 病棟の歩み

回復期リハビリテーション病 棟とは、脳血管疾患または大腿 骨頚部骨折などで急性期を脱し ても、まだ医学的・社会的・心 理的なサポートが必要な患者さ んに対して、多くの専門職がチー ムを組んで集中的なリハビリ テーションを実施し、心身とも に回復した状態で自宅や社会へ 戻っていただくことを目的とし た病棟です。2000年6月には、 岡村大成脳神経外科部長を委員 長として、看護部、リハビリテー ション部、医療社会福祉部(現 在の医療支援部社会福祉課)等 から多くの部署の代表が集まり 回復期リハビリテーション病棟 推進委員会が発足しました。委 員会が中心となって、入院中で あった長期療養目的入院患者の 退院支援、対象患者の確保にむ け急性期基幹病院との連携、退 院後の介護保険サービス等への 円滑な移行にむけ病院・施設へ の訪問等、リハビリテーション を通じて施設間のネットワーク



- 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士数の推移
- ・2007年 職員数の増加により、主に医療保険のリハビリテーションに従事するリハビリテーショ ン部と、介護保険のリハビリテーションに従事する通所サービス部の2部署に分かれた
- ・2018年 在宅部門強化目的にて、通所サービス部は通所・訪問リハビリテーション部に名称変更、 介護保険のリハビリテーションに従事するスタッフの配置が一元化された

化に努めました。また、 当時は理学療法士 7名・ 言語聴覚士 1名が在籍し ているのみであり、大士の 基準である作業療法 2001 年 1 月念願の作業療法士 が入職、4 月には新卒 が入職、4 月には新卒 が入職、4 月には新卒 が入職、4 月には新卒 が入職、5 言語 に業療法士 4 名、言語 覚士 1 名の体制となりました。

2001年5月、満を持 して岡山県下で2番目に 回復期リハビリテーショ ン病棟を開設しました。 これを機に、機能訓練が 主体の訓練室でのリハビ リテーションから、病棟 の生活の中でのリハビリ テーションが始まりまし た。広い病室、病室毎の トイレ、廊下の広さ、廊 下に据え置きのベンチ、 療養型病棟の時代から"日 常生活リハビリテーショ ンルーム"と銘打ってい た病棟の食堂は、病棟内 でリハビリテーションを 行うにあたり最適の環境



写真 1 リハネットルームで行われている回復期リハビリテーション病棟カンファレンス



写真 2 旧本館の図書室で行われていたリハビリテーションカンファレンス



写真 3 2012 年心大血管疾患リハビリテーション施設基準認定により始まった心臓リハビリテーションカンファレンス

況を、病棟にて実際に行っていただく歩行回診も始まりました。歩行回診は患者家族・医師・看護師・介護職員が現在の能力を把握し"できる ADL"から"している ADL"に向上できるよう情報共有の機会、患者にとっては緊張しつつも晴れやかな場、思いを直接伝えることができる場となりました(写真 4)。

2002年11月30日、回復期リハビリテーション病棟開設を記念して、福岡県大牟田市のみさき病院院長の山田智先生をお迎えし、リハビリテーション





写真 4 歩行回診

部が中心となって準備した『摂食・嚥下講演会』を開催しました。講演会には、院内・外から約150名の参加がありました。 嚥下に関するメカニズムから見体的な嚥下障害の見方まで盛りだくさんの内容で、参加者からは「すぐに実行できる」「今後チームで取り組みたい」等の意欲的な意見を多くいただきました。

2003年、それまでの平日の みリハビリテーションを実施す る体制から土曜日のリハビリ テーションを開始しました。ま た同年、介護予防・自立支援の 観点から効果があると竹内孝仁 国際医療福祉大学大学院教授が 推奨していたパワーリハビリ テーション機器が県内の病院で いち早く導入されました。パワー リハビリテーションは軽い負荷 で反復運動をすることで筋肉の 再活性化を行い、それが身体的 能力の向上あるいは改善につな がり、同時に活動への自信を引 き出します。身体的活動性の向 上と精神的活動性の向上が相互 に影響しあい、最終的に行動変 容が起こるとされており、リハ ビリテーションツールの一つと





2004年9月 理学療法ルームは南館1階から旧本館5階 に移転、作業療法ルームは南館1階、言語療法ルームは院 内に点在

	<u> </u>
2003年	総合リハビリテーション施設
2006年	脳血管疾患等リハビリテーション I 運動器リハビリテーション I
2009年	呼吸器リハビリテーション I
2012年	がん患者リハビリテーション 心大血管疾患リハビリテーション I
2016年	廃用症候群リハビリテーションI

表 1 しげい病院リハビリテーション関連施設基準の変遷

して積極的活用が始まりました。 2006年、それまでの理学療法、作業療法、言語療法の施理学療法、作業療法、言語療法の施力・ビリテーションでは、リカビリテーションでは、リカビリテーションの対象疾患にではが認定に順次取り組みました。また、疾患別リハビラーという事があり、リハビリカられた年でもあり、リハビリカられた年でもあり、リハビリカられた年でもあり、リハビリカの復期、生活期という基本構造 となり、状態や時期に応じてシームレスな連携が 求められることとなりました。

2010年、質の評価と して回復期リハビリテー ション病棟入院基本料に 休日リハビリテーション 提供体制加算とリハビリ テーション充実加算が導 入されました。これによ り、365 日リハビリテー ションを提供できる体 制、1日あたりより多く のリハビリテーションを 提供できる体制が求めら れることとなり、2011 年に日曜・祝日を含む 365日リハビリテーショ ンを実施する体制に移行 しました。

2012年より回復期リハビリテーション NST という名称で、医師・看護師・管理栄養士・薬剤師・臨床検査技師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士で構成される多職種チームを作りました。そのチームで週1回

カンファレンスを行い、栄養補助食品の摂取対象患者を選定し、リハビリテーション後に必須する取り組みを始めました。回り組みを始めました。回入にリテーション病棟に入が認められると報告されていま者の約4割は低栄養が認められると報告されている患者のの一部は低栄養改善が必要です。をです。が、これに先駆けてしばい病院では、これに先駆けてしばい病院を持ちばいる。

ではリハビリテーション栄養の 考え方と実践がチームで行われ ていました。

2012年、それまで入院基本 料に包括であった人工腎臓が回 復期リハビリテーション病棟で 算定できることとなりました。 透析患者は、元々の活動性低下 による廃用状態であることが多 く、さらに透析治療に伴う時間 的制約や合併症のためリハビリ テーションの実施が困難な場合 が多く、その成果も上がりにく いことが報告されていましたが、 透析とリハビリテーションを2 本の柱とするしげい病院の使命 との思いから、2013年1月に 本館2階病棟が2病棟目の回復 期リハビリテーション病棟とな りました。

2013年4月には、整形外科 医師清水がリハビリテーション センター長に就任し、しげい病 院のリハビリテーション理念と して「リハで人を幸せに」を掲 げました(写真5)。清水は、し げい病院でのより良いリハビリ





写真 5 書道家の増田広春先生による書 しげい病院のリハビリテーション理念「リハで人 を幸せに」贈呈式

この書は、リハビリテーションセンター入口横、回復期リハビリテーション 2 病棟に掲げられている

日本リハビリテーション医学会 記定言正 劇和会しげい病院殿 貴施設を公益機固法人日本リハ ビリテーション医学会研修施設として認定します 温定春号第119781号 温定春号第2019年3月31日 全員社団法人日本リハビリテーション医学会 理事長水間正/全

写真 6 日本リハビリテーション医学会認定証



写真 7 2013 年 8 月 倉敷リハビリテーション医学懇話会 主催講演会「促通反復療法の理論と成績について」川平和美 先生: 鹿児島大学リハビリテーション科 名誉教授





写真 8 川平和美先生による川平法実技講習

テーションのために、鹿児島大学霧島リハビリテーションセセター 川平和美先生、藤田保健衛生大学リハビリテーション大学、東北大学リハビリテーション大生、東北大で短期研修を受けておりました。同年6月に、清水が日本リハビリテーション医学会指導医となり、しずい病院は日本リハビリテーション医学会研修施設に認定されました(写真6)。

2013 年 8 月 30 日には、倉 敷リハビリテーション医学懇話 会主催で川平和美先生による『促

通反復療法の理論と成績について』の講演会が開催され参加人数 215名と盛会となりました(写真 7.8)。同年より、リハビリテーションスタッフも川平法の研修受講をはじめ、受講者総数は現在12名となっています。川平法は、しげい病院のリハビリテーションのすぐれた特徴の一つになりました。

2014年、回復期リハ ビリテーション病棟に入 院時訪問指導加算が新設 されました。退院後の住 環境を評価した上で多職 種が協働してリハビリ テーション計画を策定す ることが求められていま す。入院から1週間以内 に患者宅を訪問するとい う難易度が高い算定要件 がありましたが、地域連 携部門との協働により、 紹介元病院への転院前訪 問時から患者・家族への 説明を行うことで、円滑 に入院時訪問を行うこと

ができました。

同年、一般病棟にも作業療法 士を専従配置しました。回復期 リハビリテーション病棟では理 学療法士、作業療法士の病棟配 置が必要でしたが、一般病棟の リハビリテーションスタッフ配 置は、病棟内での予防行為が診 療報酬上で評価され、在院日数 の短縮や廃用・褥瘡予防といっ た病棟マネジメント業務に、リ ハビリテーションスタッフの専 門性を発揮することが認められ た画期的なことでした。一般病 棟においてもリハビリテーショ ンスタッフのキーパーソンがで きたことで、病棟スタッフとの 連携が深まりました。また、し げい病院の医師は、その科を問 わず皆がリハビリテーションに 関与しており、より早期のリハ ビリテーション指示に繋がりま した。

2016年、回復期リハビリテーション病棟に実績指数が導入され、さらに2018年度には回復期リハビリテーション病棟におけるリハビリテーション病棟におけるリハビリテーションの観点から、①基本的な医療の評価の推進を図る観部分と②診療実績に応じた段階の体系に再編・統合が図られました。2018年10月より2病棟ともに新入院料1を算定することができました。

腎臓リハビリテーションを開始

腎臓リハビリテーションは、2010年ごろから国内で広がりを見せており、2011年に腎臓リハビリテーション学会が発足、効果を検証する研究を行いながら指針作成や保険適用を目指し





写真 9 (上) 2016 年 3 月 第 6 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会

(下) 模野博史先生: 岡山大学病院長、上月正博先生: 東北 大学教授、伊藤修先生: 東北大学准教授と重井文博 理事長・ 院長

ています。岡山で初めて透析を始め、腎臓病の病院としてのしげい病院にリハビリテーションを取り入れた重井文博院長は、早期より腎臓リハビリテーションに注目していました。

しげい病院では、2012年に CKD外来での運動指導、2016年に運動をするきっかけづくりとして透析患者の体力測定と運動指導などを開始しました。また2018年、透析患者の認知機能検査を開始しました。

透析とリハビリテーションを 重視しているしげい病院にとっっ て、日本腎臓リハビリテーション学会は重要な学会です。日本 腎臓リハビリテーション学会の 代議員は、しげい病院より医師、 看護師、理学療法士の各1名が 選ばれています。2013年開催 の第3回日本腎臓リハビリテーション学会より参加し、2016 年3月に岡山で開催された第6

回日本腎臓リハビリテー ション学会は、岡山大学 病院長 槇野博史先生が 大会長、重井文博院長が 副会長として開催されま した。学会参加人数は、 1.500 名を超え盛会とな りました(写真9)。そ の後も、日本腎臓リハビ リテーション学会には 積極的に関わっており、 2019 年開催の第 9 回日 本腎臓リハビリテーショ ン学会では、しげい病院 よりシンポジストとして 4名、一般演題7名が発 表しました。

今後も、腎臓リハビリテーションに積極的に取り組み、腎臓病の患者さんの幸せに貢献してまいります。

ノルディック・ウォークの導入

登山とバックカントリース キーが趣味であった重井文博院 長が、2009年開催の第46回 日本リハビリテーション医学会 学術集会でノルディック・ウォー クと出会いました。その日から フィジカルトレーニング、健康 増進から介護予防、リハビリテー ションにいたるまで広く活用が 期待できる2本のポールウォー キングを世間に広めることが重 井文博院長のライフワークの一 つになりました。しげい病院で はリハビリテーションツールの 一つとしてノルディック・ウォー クを取り入れています (写真 10)。

2017年11月には、重井文博院長を大会長として第6回日本ノルディック・ウォーク学会



写真 10 2009 年には、リハビリテーション ツールの一つとしてノルディック・ウォークを取 り入れていた(当時の旧本館 5 階理学療法ルー んにて)

学術大会が倉敷にて開催されました。~広げよう ノルディックポールで口コモーションの輪~のキャッチフレーズのとおり、ノルディック・ウォークを多くの人に知ってもらう良い機会となりました。

介護保険との関わり

2000 年、高齢化や核家族化 の進行等の時代背景から、あ るの介護を社会全体で支えが施 仕組みとして介護保険法がした。同年4月、 い病院においても介護保険 いても介護保険においても介護保険 によいても介護保険にあいても介護保険にあいても介護所リカー が表別の一つある通所リカーション事業がです。 と開始しました。これにいい を開かしました。よるととは を開かしました。 ととなりました。 ととなりました。 ととなりました。 ととなりました。

2006年、医療保険での疾患別リハビリテーションに標準算定日数が定められ、生活期のリハビリテーションは介護保険の役割という方向が示されました。しげい病院で外来リハビリテーションを受けていた患者の多くは疾患別リハビリテーションの標準算定日数を経過していましたが、しげい病院通所リハビリ

テーションへ円滑な移行を進め ることができました。

現在、通所リハビリテーショ ンは利用登録者数約340名とな り、短時間の利用を中心とし、 リハビリテーションに重点をお いた特徴ある運営を行ってい ます。また、訪問リハビリテー ションは、退院直後の生活機能 が最も不安定な時期に重点的に 関わり、短期間の利用で卒業で きるよう目標指向性の訪問リハ ビリテーションを提供し国際生 活機能分類(ICF:International Classification of Functioning) の「活動」と「参加」を支援し ていることが特徴です。2018 年には、更なる訪問リハビリテー ションの拡大のために、倉敷し げい訪問看護ステーションから の訪問リハビリテーションを始 めています。

院外活動について

2015年、健康増進施設はあ もにい倉敷の通所介護に理学療 法士の派遣が始まりました。通 所介護事業所へのリハビリテー ションスタッフの配置が一般的 ではないなか、理学療法士が配 置されたことで、利用者および 通所介護に関わるスタッフにリ ハビリテーションの視点が啓発 でき、はあもにい倉敷の通所介 護の質向上の一助となれたので はと感じています。

2016年より、地域連携室の スタッフや回復期リハビリテー ション病棟の責任者に同行して、 地域連携活動(転院前訪問)へ の参画を開始しました。転院前 からリハビリテーションスタッ フの視点が入ることが効果的で あるとの声をいただいています。 また 2017 年より、転倒 予防教室等の地域予防活 動への参画を開始しまし

2018年7月には、平 成最悪の豪雨被害をもた らした西日本豪雨が発生 し、河川の氾濫により倉 敷市真備も甚大な被害が 生じました。東日本大 合された現在のリハビリテーションセンター 震災を教訓にして大規

模災害リハビリテーション支援 関連団体協議会(JRAT:Japan Rehabilitation Assistance Team)が全国組織として作られ ていましたが、発災当時は、岡 山には地域 JRAT は存在しませ んでした。2018年7月11日 に県内のリハビリテーション医 療に携わるスタッフが集まり岡 山JRAT(当時仮称)が結成さ れ、しげい病院からも医師、理 学療法士、作業療法士、言語聴 覚士が参加し、避難所にて組織 的・継続的なリハビリテーショ ン支援を行いました。

今後も院外活動にも積極的に 関わり地域に貢献してまいりま す。

おわりに

「リハで人を幸せに」これは、 しげい病院のリハビリテーショ ン理念です。ここでの、「人」は 患者さん本人であり、また、そ のご家族や友人、職場の仲間、 そして、われわれスタッフも含 まれております。しげい病院の リハビリテーションは、脳卒中、 脊髄損傷、外傷、心臓疾患、腎 臓疾患、呼吸器疾患などのつら い闘病生活に寄り添う一差しの やわらかい光でありたいと思っ ております。「大変だったけど、



2013 年 8 月 理学療法・作業療法・言語療法ルームが統

しげい病院でリハビリテーショ ンができて良かった。あきらめ ていたことができるようになっ た。」そう言ってもらえることを、 われわれしげい病院のスタッフ の目標としたいと思っておりま す。また、リハビリテーション の分野は、進歩が早くわれわれ も最新の治療や知見を積極的に 取り入れてまいります。

病院 のコロナ対策、登録 70%をこえる ~病院挙げての COCOA の取り組み~

しげい病院 医療支援部 総務課 比津 守弘

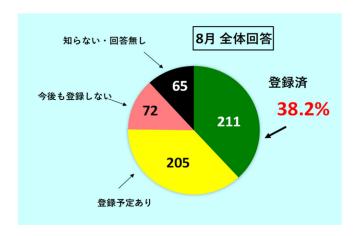
厚生労働省が推奨している新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)は、陽性者と1メートル以内・15分以上接触した可能性がある人へ注意喚起の通知を行ない、迅速に検査につなげる効果があります。しげい病院においても自分自身やご家族、そして患者さんを守る観点から職員へのCOCOAのインストールをすすめています。

職員のインストール状況を把握するために、しげい病院が導入している災害時等における職員への伝達手段"セコムトラストシステムズ社の e 革新サービス"を利用し、2020年8月24日・9月28日・11月6日の3回にわたって調査を行ないました。

調査内容は【登録(インストール)済】【登録

する気があるができていない】【登録しない】【登録できない】の4項目で、各回の調査後に全体及び各部署へのフィードバックとインストールの声掛け(特に登録する気があるができていない人を対象)を継続的に行ないました。その結果として、8月24日調査時点でのインストール率38.2%に対し、9月28日調査時点ではインストール率50.3%、そして11月6日調査時点ではインストール率72.9%と、病院全体の目標数値とした70%を達成しました。

このアプリの利用者が増えることで、より感染拡大防止につながることが期待されます。インストール済の職員の皆さん、ご家族や知人への推奨をしていきましょう。









▲陽性者との接触確認が可能

しげい病院 SNS2020 ベストショット!!

しげい病院 IT 推進・情報管理室 係長補佐 松田 圭市

しげい病院では4つの SNS で情報発信を行なっています。各担当の選んだ 2020 年の個人的ベストショットと振り返りを発表させていただきま

す。今年も真面目なものから面白いものまで色々と投稿していきますので引き続きしげい病院の SNS をよろしくお願いします!

しげい病院 Facebook (sowa.shigei)





◀2020年4月10日投稿

マスクが全然なかった時期に国から医療機関向けに支給があって印象に残っています。2020年は新型コロナウイルスの影響で院内イベントがほとんどありませんでしたので、かわりにたくさん院内のできごとや当院の新型コロナウイルス対策の状況を発信してきました。2021年は明るい話題をたくさん発信できればと思います。 (松田)

しげい病院 Instagram (shigei_hospital)





◄2020年8月12日投稿

インスタ映えするフォトジェニックな写真を撮りたいのですがなかなか難しくて苦戦しています。上手にとるコツとかあったら教えてください。青空と花の咲いた緑のカーテンの写真は明るい感じがして好きです。今年もたくさん投稿していくつもりです。見る人が笑顔になるような投稿を目指して今年も頑張るので"いいね!&フォロー"をよろしくお願いします。 (松田)

栄養部 Instagram (shigei_eiyo)





▲2020年9月7日投稿

栄養管理部では2019年3月1日にインスタグラムを始め、約2年が経ちました。2020年は慌ただしく過ぎ、更新もマメにできませんでしたが、行事食や季節の食材を中心にアップすることで、少しでも季節感を感じて頂けたのなら嬉しいです。2021年は食事だけではなく、栄養管理部の日常にも触れながら更新していきたいと思います。 (秋山)

リハビリテーション部 Instagram (shigeiriha)





◀2020年 10月 19日投稿

リハビリテーション部の Instagram では、患者さんの作品や部内での勉強会など日々の様子を通所のリハビリスタッフと協力して更新しています。その中で私たちの選ぶベストショットは、10月19日のリハビリ部事務職員が優良職員賞を受賞した際の投稿です。マスク姿ではありますが、笑顔があふれています。引き続き、"いいね!&フォロー"よろしくお願いします!(河野・妹尾)

病院の窓に巨大なクリスマスツリーが出現!!

研究所附属病院 事務部 栗原 玲音

毎日 17 時になると、突然、研究所附属病院の入院棟に浮かび上がり、日付が変わると同時にシンデ レラのように消える巨大なクリスマスツリー。

研究所附属病院では、昨年の 12 月 に初めてイルミネーションに挑戦し

真鍋院長から発案され、事務部の 目黒係長・小笠原さん・栗原の3人 で担当しました。クリスマスツリーの 形になるように照明を付けては隣の 山田グリーンパークに確認をしに行 <…を繰り返し、試行錯誤の末、ク リスマスの一週間前にギリギリ完成 しました。

制作中は、"完成する前にクリスマ スが終わるかもしれない"という焦 りと戦い、無事打ち勝つことができ たわけですが、2号線に突然浮かび 上がったクリスマスツリーを皆さん、 見ていただけたでしょうか? (ツリー を見ていて事故をしてしまったとい う話は聞こえてこないので、ひとま ず安心をしています。)



▲また、今年のクリスマスに出現するかも!?

權し物案内 重井薬用植物園 植物園を楽しむ会 「恋風吹く日の木立を楽しむ」 日時:2月14日(日) $10:00\sim 12:00$ 会場:重井薬用植物園

編集後記

- 2020 年もあっという間に過ぎ、2021 年が来てしまいました。しげい病院に入 職して早何年…。一年一年が光のごとく過ぎていきます。そのように思うたび、年 をとったなと感じる今日この頃。2021年は丑年。丑の年は「黙々と目の前の自分 の仕事をこなすことが、将来の成功につながる」と考えるとよいそうです。この言 葉を心に、仕事だけではなく様々なことに挑戦し、楽しんでいきたいと思います。 皆さんは年末年始どのように過ごされましたか?
- ●岡山市内も雪が舞い始めたある日、県北に住む母親から「初雪です。たいしたこ とないです。」と写真が送られてきました。そこには 10cm は雪が積もっている庭 が写っていました。県南では何年も見てない景色でしたので、「たいしたことない」 という母親が信じられませんでした。しかし県南にでてきて 10 年弱、毎年なって いた霜焼けに一度もなってないことに気付き、県北との気温差を改めて実感しまし た。昨年は新型コロナウイルスの流行もあり、例年になく体調管理をしっかりとし てきました。今年もこのまだまだ続く寒さに負けず、気を緩めることなく体調に気 を付けて生活を送りたいと思います。



生きることの尊さと健康であることの幸せを、すべての人と共に

しげい病院

〒710-0051 倉敷市幸町2-30 TEL086(422)3655 FAX086(421)1991

重井医学研究所附属病院

〒701-0202 岡山市南区山田2117 TEL086(282)5311 FAX086(282)5345

倉敷しげい訪問看護ステーション

重井薬用植物園 〒710-0007 倉敷市浅原2 TEL086(423)2396

重井医学研究所 〒701-0202 岡山市南区山田2117 TEL086(282)3113 FAX086(282)3115

倉敷昆虫館 〒710-0051 倉敷市幸町2-30 TEL086(422)8207

岡山しげい訪問看護ステーション 岡山しげい居宅介護支援事業所 〒701-0202 岡山市南区山田2117 TEL086(282)4300 FAX086(282)4301

倉敷しげい居宅介護支援事業所

〒710-0051 倉敷市幸町2-30 TEL086(422)8111 FAX086(421)1991